

変革の風



2022年3月15日発行
 教育スポーツアカデミー事務局
 〒276-0049 八千代市緑が丘 2-29-10
 TEL&FAX 047-450-0238
 Mail esa2021kagaya@gmail.com
 URL http://es-aca.com/
 発行人 加賀谷孝 編集人 佐藤雅英
 個人会員 69名 法人会員 22団体

自分の夢に向かって走り続けよう



エスフェローザ八千代の練習風景 2022.2.15 於：八千代スポーツガーデン

第3号発行に寄せて

副代表 久保 光則



柔らかな日差しに誘われ、我慢していた外出をしました。上野の東京都美術館に「フェルメールと17世紀オランダ絵画展」に行くことを決めました。上野恩賜公園を歩いていると寒桜が一本だけ、悠々とつぼみを膨らませていました。絵画、桜、暖かな日差し、「密」を心配してしまいそうな人混みさえ、心を沸き立たせてくれました。

今日は3月10日です。1945年3月10日「東京大空襲」。77年前の今日、10万の人が死亡し、100万人を超える罹災者が生まれました。小学生の頃、仲の良かった和樹君の叔父さんから焼夷弾による火災のこと、火傷のこと、死んでいく人々のこと等の話を聞いたことがありました。怖い経験でした。上野恩賜公園にもたくさんの方が逃れて来たそうです。多くの息絶えた人たちの「仮の火葬場」が「西郷さん」の銅像の脇にできたことは後から知りました。和樹君のおじさんは『東京大空襲』という本を書いた、早乙女勝元さんでした。

今日の新聞一面の見出しは「キエフ3方向包囲 総攻撃の準備進む」です。77年の間に、これだけ科学を進歩させることのできた人類は、未だ「平和な世界」を築けずにいるだけでなく、絶対に起こしてはいけない愚かしい「戦争」まで引き起こしています。今、私たちにできることは何でしょう。子どもたちは、どう考えているのでしょうか。聴かなくてはいけないはず。話さなくてはいけないはず。教室はそのためにあると思います。

4つのスポーツクラブを訪問させていただきました。子どもたちの「可能性」を引き出す試みがたくさんされていました。スポーツには「自分を変える力」そして「社会を変える力」があります。

明日は3月11日です。過去を振り返り、明日を考える日です。

そして、同時に「教育スポーツアカデミー」の役割も、もう一度考えてみたいと思います。

若者の海外在留体験について

齋藤会計事務所 公認会計士 齋藤 敏夫

加賀谷先生のご紹介で入会を決めた、市内で会計事務所を開業する齋藤でございます。今回佐藤先生からの寄稿のご依頼がありましたので、私と娘の体験を紹介させて頂こうと思います。

私は1998年入会の八千代ロータリークラブの会員です。国際ロータリークラブに青少年交換留学制度があることを知り、若年層の国際交流が国際親善の源とは常々考えつつも、身近にその対象の存在を確認することも出来ずにいました。

私には二人の娘がおります。長女は既に大学生、もう一人は高校生でした。とても（青少年交換留学制度の）対象にならないと思いつつ、試しに切り出してみたところ、二つ返事とはいかないまでも満更でもなさそうな様子でした。難題は二つ、年次が二年生であること、海外生活の経験が無いことでした。

相談の末、推薦に向けてクラブ内の合意を得たうえで話を進め、何とか一年の長期交換留学の承諾を得ることができました。カナダ西海岸のプリティッシュコロンビア州内のシーシェルトという片田舎のロータリークラブをホストクラブに、一年間の留学が決定したのでした。問題が噴出したのはその後の事です。飛行機の搭乗経験が無い、英語の会話の能力が乏しい等の諸問題が噴出したのであります。

しかし、数々の諸問題をクリアして臨んだ海外留学の体験は後に振り返ってみても、かけがえのない貴重な体験であったと思っています。

ロータリーの青少年交換留学制度は、相互に交換留学生を受け入れ、現地のロータリアンがホストファミリー

を引き受けることを原則としています。決してゲスト（お客様）として迎えることがないこと、各地の学校で日本語が全く通じないことが多く、自ら関わらない限り仲間に入れてもらえないということです。月一回の州単位のミーティングで各国からの留学生と交流があること、留学後半年を経ないと肉親と会えないこと等、甘えることを許されない環境は、日本の高校生生活では味わえないものでした。

娘の場合、帰国後、既に卒業した同級生と学校が、半年後に帰国した娘の為にたった一人の卒業式を挙げてくれました。浪人中の大学受験に当たって、新卒対象外の自己推薦入学制度のある中央大学へ進学することができました。まるで常人とは違った人生を歩んだ娘は、推薦入学した大学でスカラシップ制度による奨学金を4年間受け、授業料は半額免除になりました。家内は卒業に当たり、貯めていた授業料の半額を卒業の餞に「貴方の努力の賜物よ」とプレゼントしたことは、私にとっても誇らしく思えることでした。

今、彼女は大学時の同級生だった夫と共に、コネチカット州ハートフォードで7歳と4歳の幼児の母として在外勤務に同行しています。すっかり現地に溶け込み、アメリカ流の現地生活を満喫しているようです。

今は、現地勤務を終え帰国する孫たちとの同居を楽しみにしています。



《法人会員のコーナー》 順不同

八千代松陰学園
 〒276-0008 千葉県八千代市上727
 phone:047-482-1234 / fax:047-485-0504

CHIBA EIWA HIGH SCHOOL
 学校法人 聖徳学園 千葉英和高等学校

有限会社 ヴィジュアルコミュニティサンセン
 広告・看板・印刷・ホームページ制作
 〒276-0011 千葉県八千代市緑が丘5-6-1
 TEL:047-485-9280

秀明大学
 □学校教師学部 □看護学部 □総合経営学部
 □英語情報マネジメント学部 □観光ビジネス学部
 〒276-0003 千葉県八千代市大字町1-1
 TEL:047-488-2111 (代表) FAX:047-488-8290

秀明八千代高等学校

有限会社 オフィスアラシ
 〒276-0044 千葉県八千代市大字町1-1-1

茶房・古美術 古久
 〒276-0003 千葉県八千代市大字町1-1
 TEL:047-486-4649

勝田台店
 八千代市勝田台南1-2-16
 ☎047(482)4800

翠燿会
 社会福祉法人

齋藤会計事務所
 SAITO ACCOUNTING FIRM
 047-482-2345

スポーツクラブ訪問報告

スポーツ部 久保 光則

スポーツの力を社会や自分を変える力にするには何をすべきなのでしょう。今後のスポーツのあり方について考えたい。そんな思いを持った私たちは、教育スポーツアカデミーに所属するスポーツクラブを訪問しました。

1 エスフェローザ八千代（サッカー）

2月15日、寒さに震えながらエスフェローザ八千代の練習会場「八千代スポーツガーデン」を訪問しました。星の輝く夜空の下、十分な照明に照らされた美しい人工芝のフットサルコートは、4～6年生を中心とした選手たちの元気な声が響いていました。

目当ての確認や修正点の指示などが、短い時間でコーチから出されます。丁寧でわかりやすい言葉でされる指示に、選手たちは頷きながら耳を傾けていました。20分ほどかけ、数セット同じ練習を繰り返しました。セット間のインターバルにはコーチングがあり、選手たちの体も心も温まっていきました。練習後、誰からともなく「ありがとうございました」という挨拶が招かれたコーチの方に向けられていました。



給水後、次のトレーニングメニューに移りました。3つあるフットサルコートでは、3つのカテゴリーに別れ、担当のコーチとともにそれぞれの目当てに沿ってトレーニングメニューに取り組みま

した。選手たちは、嬉々として取り組んでいました。選手たちの中には女子もいます。とても高い技術を持っていました。運動量も十分に確保されています。ゲーム間のインターバルには選手たちが話をする場面も多くみられました。20分ほどたった頃、コーチが選手たちを集めました。



「もっと指示がほしい。特に、ディフェンスに入った瞬間の指示をしっかりとやろう。」再度、ゲームが始まります。選手間での指示が増えました。

《訪問者の感想より》

- クラブハウス、コートを含め清潔な環境があった。
- 受付での対応にも訪問者に対する心配りがあった。
- ゴールポストに巻かれたセーフティマットなど安全面への配慮が感じられた。
- 見学者、保護者のために十分なベンチが用意されており、ホスピタリティが感じられた。
- 明るい雰囲気の中でクラブ運営がされていることがうかがえた。

2 Viviana RG（新体操）

2月17日、市民体育館第2武道場に入るとそこにはピンと張り詰めた空気がありました。

「もう少し伸ばしてみよう」と、コーチの優しい声が聞こえてきます。幼児クラスと一般クラスの2つのクラス10名ほどが、それぞれ担当のコーチの指示に従ってトレーニングをしていました。小学校就学前の小さな子もいますが、一生懸命取り組んでいます。

15分ほどすると幼児クラスのトレーニングは終わりました。自分で使ったものは自分で、みんなで使ったものはみんなで片付けています。幼児クラスの子も笑顔で片付けていました。



Viviana RGは、「コーディネーショントレーニングを土台に運動神経を育てる」ことを方針の一つに掲げています。コーディネーショントレーニングとは、潜在能力に働きかけ「学ぶ力」を引き出す脳のトレーニング方法です。（Viviana RG ホームページより）

上級クラスの選手たちもトレーニングを始めます。コーチの要求も少し高くなっていきます。選手一人一人の持つ潜在能力や個性はみんな違います。一人一人に問いかけ、言葉を選び、時には体に触れながら指導していました。選手の真剣なまなざしに「心の温度」の高まりが感じられました。

19:00からはメインアリーナでの練習で、育成クラスの選手も加わりました。新体操の持つ美しい動きにハッとしました。

コーチの方にお別れを告げた帰り際、一人の選手と目が合い会釈をしてくれました。私は小さく手を振りました。彼女も小さく振りかえしてくれました。少し離れた育成クラスの選手は、「ありがとうございました。」「さようなら」と声をかけてくれ、楽しい時間が終わりました。

《訪問者の感想より》

- 保護者が見学するスペースが確保され、トレーニングに必要な用具に関して、コーチから保護者に丁寧な説明がされ、ホスピタリティと連携の意識が感じられた。
- 第2武道場やメインアリーナを活用し、十分なスペースが確保され、安全面の配慮があった。



3 NPO法人鎌ヶ谷スポーツクラブ（サッカー）

2月22日、KAMAGAYA SC U-12のトレーニングを見学させていただきました。

クラブハウスにうかがうと、受付の方が笑顔で迎えてくれました。フットサルコートからは選手、コーチの声が聞こえてきます。

コートでは、コーチも入り8対8のミニゲームが行われていました。女子選手もいますが、もちろん男子選手に負けずボールを追いかけています。よく見ると、コーチ以外にも大人の選手が混じっています。後で聞いたところによると、KAMAGAYA SC O-40に所属するお父さんでした。選手はお父さんとトレーニングゲームをしていたのです。トレーニング後の帰路、車の中でどんな話をするのでしょうか。そして今日の夕食はどんなサッカー談義になるのでしょうか。間違いなく、家族にとって「幸せな時間」が待っていると思えました。

15分ほどするとコートを広げ、再度ゲームです。選手個々のプレーが評価され、課題が提示されながらミニゲームは20分ほど続き、運動量も十分確保されました。

給水の後、再度通常のコートでミニゲームが始まります。ボールに触れる回数も大幅に増え、休む場面がないだけでなく、ボールを持っていない場面での判断が重要になってきました。チームが交代した後のインターバルでは、選手間のコミュニケーションも多くみられました。

選手間で出された課題はどのようにチームのものになるのだろうか？そして、次回のトレーニングにどうつながるのだろうか。最後のミーティングまで見ていたいという思いを持ちながら、鎌ヶ谷スポーツクラブを後にしました。

《訪問者の感想より》

- 見学者のために用意されたベンチや、受付の対応などクラブのホスピタリティが感じられた。
- U-12、U-15、社会人、O-40など各世代のチームを有し、地域スポーツの活性化を意図するコンセプトを感じた。
- ゴールポストに巻かれたセーフティマットなど安全面への配慮が感じられた。



4 FC八千代台キッカーズ（サッカー）

新型コロナ感染防止のため中断していた活動を再開したとの連絡を受け、3月6日、FC八千代台キッカーズの活動を見学させていただきました。

FC八千代台キッカーズは、1982年にできた地域の子どもたちのためのサッカーチームです。指導されるコーチの皆さんはボランティア。そして、ほぼ全員が選手の保護者あるいはOBの保護者です。親子サッカー大会やOBとの交流会などを通し、地域とのつながりを深める挑戦も続けているとのことでした。

高学年のトレーニングが始まりました。ウォーミングアップを時間をかけて行っていました。

次は、短い間隔に置かれたコーンを使ったドリブルです。目当ては顔を上げることでした。サッカーでは、視野を広げることはとても重要なことです。コーチがいきなりじゃんけんを要求したり、インターバル中の選手が手指を示し指が何本出されているかを尋ねたりしていました。二つのことを同時に行うことはとてもむずかしいことだと思えました。

選手たちが、コーチの声かけに笑顔で答えたり、真剣に聞き入ったりする姿が印象的でした。

《訪問者の感想より》

- 子どもたちのために貴重な時間を割くボランティアコーチの多さに、伝統と地域という繋がりを感じた。
- 子どもたちの笑顔から、保護者や地域の皆さんに育まれているという「安心感」が感じられた。



クラブ訪問を終えて

- 4つのクラブに、共通して感じたことがあります。
- 子どもたちを支える温かな環境があったこと。
- 子どもたちの可能性や主体性を引き出そうと努力されていること。
- 保護者や地域との繋がりを大切に考えていること。
- 子どもたちの技能を高めるために、指導者が創意工夫していること、などでした。

「八千代フォレスト（ミニバスケット）」は、近々訪問できることを楽しみにしています。

《法人会員のコーナー》 順不同



学校と福祉事業所の関係性

グリーンヒルズキッズ 宍倉 富子

昨今、『放課後等デイサービス』という言葉が耳にすることが多くなりました。『放課後等デイサービス』とは、平成24年4月に児童福祉法に位置付けられた新たな支援です。

障害のある学齢期の子どもたちの健全な育成を図ることが支援の根幹にあり、子どもたちに提供される支援の形態は、各事業所によって多様であるといえます。私の職場では、市内小学校の通常級・支援級に在籍している児童や通級指導を利用している児童が、1日10名、個々のニーズに応じた個別支援計画のもと、社会性の向上、社会との共生を目標に利用しています。私たち支援者は、子どもの療育はもちろん、保護者のサポートにも大きな役割を担っています。子どもたちは一人一人特性があり、日常生活に支障をきたすことがありますが、環境によって少しずつ改善できる十分な可能性を持ち併せています。現にSST(ソーシャルスキルトレーニング)やロールプレーなど、グループワークを通して、人とのかわり方を身につけることができている。その成長過程を保護者と共有し、家庭と福祉事業所の連携を図り、子どもたちの自己肯定感を高め、自信を持って生きていく礎を育てているところです。

しかし、どうしても家庭と福祉事業所の連携だけでは、解決できない問題も多々あります。

5年ほど前に、学校教育法で学校と福祉事業所との連携が義務化されましたが、開かれた学校であるはずの学校と家庭・事業所との連携は、まだまだ道半ばです。保護者は、子どもの問題行動が起きた時、まず福祉事業所に連絡を入れてきます。なぜなら、問題行動は平日の夜遅い時間(21:00以降)や学校休業日に起こることが多く、今まで何度も学校や公的機関に連絡を入れても、時間外や休日はつながらなかったからです。そこで、保護者はなす術をなくし、189(児童相談所

虐待対応ダイヤル)に電話をしたり、警察に連絡することになります。事業所は保護者との連携をとりながら、解決まで保護者の不安に向き合います。学校や公的機関が子どもの安全性と保護者の危機感を受け止め、緊急事態に対応してくれたら、子どもも保護者もどんなにか救われるのではないのでしょうか？

ひとつ、学校と福祉事業所の連携がうまく図れて、不登校の児童が心を開き、少しずつ登校できるようになった事例をご紹介します。

コロナで休校措置となり、家で過ごす時間が多くなったことからネットゲームにはまり、あらゆる年代(10代から50代の男女)のネット友達ができ、昼夜逆転生活を続けていた児童。学校には行かなくても事業所には、曜日・時間に関係なく来所して、学習をしたり他児と交流していました。特に事業所がお休みの土日にも来所することが多く、事業所は学校と連絡を取り合い、偶然、先生が来たようなシチュエーションを作りました。児童は学校側と少しずつ信頼関係を深め、人的環境の構築に尽力していただいた結果、なんと修学旅行に参加し、まわりの大人を驚かせました。長い長い『あなぐら生活』から、自分の力で明るい方に向かって歩き始めたのです。これをきっかけにゆくりと登校することができるようになりました。簡単な道のりではありませんでしたが、根気よくあきらめずに、学校と事業所が連携をとりながら児童の笑顔を取り戻すことができた良い一例です。

今、周りにはさまざまな理由で、学校に行けない子どもたちがたくさんいます。本人の困難さがどこにあるのか？チームになって取り組んで、その糸口を見つけ出さなければ、家族全員が疲弊してしまいます。子どもも心のどこかで、学校のことが気になっています。ましてや保護者の悩みは尽きません！これからも、保護者・学校・福祉事業所との更に密なる連携により、子どもたちと保護者が安心して過ごせる環境を作っていきたいと考えます。

活動報告(12月~2月)

★第5回研修会(企業経営から学ぶ)

2021年12月18日(土)、第5回研修会を行いました。今回は、「時代の変化と教育」をテーマとして、会員相互で研修をしました。

基調講演では、株式会社サンカジロ代表取締役の上代修二氏のお話を伺いました。幼少期から現在に至るまでの時代の変化と、その時々で決断してきたこと、そしてこれらの構想について、とても興味深い内容でした。

後半は、3グループに分かれてこれからの時代変化と教育に求められるものについて、熱心な意見交換が展開されました。



★第6回研修会(実践報告会)

2022年2月26日(土)、今年度最後の研修会となる第6回研修会を行いました。今回の研修テーマは、「新たな疑問を求めて動き出そう」でした。

武田幸治先生(勝田台中学校教諭)、野木雅生先生(米本南小学校教頭)、山田ひろみ先生(Viviana RG代表)の3名から日頃の実践を発表していただきました。

その後、グループに分かれて、3人の実践発表から生まれた疑問を出し合い、有意義な時間を過ごしました。



Information

◆2022年度 教育スポーツアカデミー総会

日時：2022年4月23日(土)14:00~16:00
会場：八千代市教育委員会庁舎1階会議室
内容：2021年度の活動報告と決算
2022年度の活動方針
2022年度活動計画と予算など

◆2022年度の主な研修会の日程(予定)

第1回研修会 2022年6月25日(土)
第2回研修会 2022年8月27日(土)
第3回研修会 2022年10月23日(日)
第4回研修会 2022年12月10日(土)
第5回研修会 2023年2月25日(土)

研修会の内容や講師については、改めてお知らせいたします。日程や内容については、変更する場合があります。



◆「今週のコラム」は毎週更新中です。ぜひ、ご覧ください。
URL <http://es-aca.com/>



Congratulations!

●菊池健先生がお父さんになりました。
命名 岳(がく)くん
2021年9月27日生まれ
体重3.042g
パパのように大きくなあれ。
ちなみに菊池先生の身長は192cmです。



《法人会員のコーナー》 順不同



新会員の紹介 2021年11月以降

★個人会員の部

- 66 田中 晴彦 (緑が丘公民館)
- 67 中臺 和貴 (緑が丘ひよこ保育園)
- 68 篠塚 泉 (千葉テレビ放送)
- 69 前島 寛 (株式会社アスク)

★法人会員の部

- 20 レストランロス・アンジェルス (代表 杉山 智基)
- 21 株式会社 アクティブフジ (代表 鈴木 介人)
- 22 医療法人社団 恵仁会セントマーガレット病院 (代表 朝戸 健夫)